

## コミュニケーション能力、人間性・・・ 監査法人に入所するための条件は、「公認会計士試験合格」だけではありません

監査法人の人事担当の方に、今年の採用方針や、会計研のみなさんに期待すること等についてお話を伺いました。

まず、今年の採用方針ですが、業界全体として採用者数を減らす傾向にあります。ただし、「将来性のある人材は安定的に採用していく」という方針は、どの法人も共通で、これまで「数」重視だった採用活動が、今後は「質」重視へとシフトされていく見込みです。では、具体的にはどのような人材が求められるのでしょうか。

ある法人では、次のようなお話をしてくださいました。「プロとしての向上心を持ち続けることのできる人。そして、サービス精神やバランス感覚といった人間性に係る部分も重視し選考する予定です。」また、「クライアントを納得させることのできるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、これらの潜在能力を有している人材を見極め採用していく方針です。」というお話もありました。実際の業務においては、「自分で調べ、考え、アウトプットできる能力をもっている」、「(調査作成の際に、)資料から問題点を感じ取り、改善提案をすることができる」このような能力を有する人材が必要とされています。

次に、会計大学院出身のみなさんに期待される能力・スキルについてですが、「ディスカッションができる、『起承転結』のある文書を書くことができる、会議で使える英語力を有している」といったことが具体的に挙げられました。このような力を身につけるにあたって、英語で行われる授業やワークショップ科目、テーマ研究科目を履修することが役立つかもしれません。今後の学習計画をたてる上で参考にしてみたいでしょうか。

最後に就職活動についてですが、監査法人の採用活動は、例年、論文式試験直後から本格的に始まります。今年の採用情報についても、順次、各監査法人HP等で公表されていますので、各自確認し乗り遅れることのないようにしてください。近年、慎重に法人選びをすることなく入所する合格者が多く見受けられるというお話も伺いました。セミナー等に積極的に参加し、自分に合った法人に入所するよう努めることも重要です。

最近では、公認会計士試験に合格すれば、監査法人への入所がある程度保障される傾向にありましたが、今年については、これまでと同様とは考えにくい状況にあります。しかし、会計研で培ったことを、選考の過程で100%アウトプットできれば、可能性は十分にあります。このような

とを踏まえ、日々の授業や就職活動への取り組み方について考えてみてください。今後も、いくつかの監査法人を訪問する予定です。月刊会計研等を通じて、情報を提供していきますので確認するようにしてください。

### 1年次に試験に合格した方へ

(2009年試験合格見込の方を含む)

監査法人の人事担当の方は、1年時に合格し監査法人に入所した場合でも、大学院を修了するまで、学業に励むことを望んでいます。自分の強みを身につけるべく、新たな目標をたて学習に取り組んでください。

## インターンシップ開催のお知らせ

8月下旬に監査法人のインターンシップが開催されます。詳細は、近日中に事務所掲示板およびWaseda-netポータルでご案内いたします。インターンシップは、監査の現場を体感できる貴重な機会になりますので、奮ってご参加ください。

### 前年度インターンシップ参加者の声

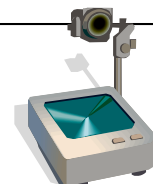
模擬監査の中で、勉強していたことが役立った。受験のための勉強というだけでなく、会計士になってからも役立つとわかって勉強に対するやる気が出た。

(工場見学に行き、)工場で行われている原価計算などを知り、勉強している内容とリンクし、感動をおぼえた。

今まで漠然としか描けなかった監査業務のイメージが、明確になった。

インターンシップに参加したことで、目の前の講義や研究だけでなく、もっと大局的な視点をもって勉強していくことが大切だと実感した。

(就職を希望している監査法人のインターンシップに参加し、)会計士試験に合格し、入所したいという思いが強くなった。目標が明確になり、モチベーションが高まった。





会計研究科2年 塩田秀樹 (商社内定)

### 入学前の経歴と会計研への進学理由を教えてください。

私は学部時代まで理系で、生命工学という分野を専攻していました。同時にアメリカンフットボール部にも所属し、毎日のように練習に明け暮れていました。会計を志したのは学部3年の冬頃で、大学卒業後に公認会計士の受験予備校で本格的に勉強を始めました。会計研に進学しようと思ったのは、その予備校で習った内容に納得がいかなかったからです。一度しっかり腰を据えて会計学という学問はどんなものなのか学んでみたかったです。

### 入学後の過ごし方について教えてください。

春学期は会計科目ばかり履修し、全ての勉強を一からやり直しました。特に予備校で扱わないような内容に興味を持って勉強に取り組んでいました。秋学期は社会に出てすぐ役に立つ授業を受けようと、ERPシステムをはじめ、実務・応用科目を数多く履修しました。また、10月からは本格的に就職活動を始め、日中は就活、夜は学校で授業、という毎日を送っていました。内々定をもらってからは公認会計士試験の勉強を再開しています。



会計研究科2年 西田優里 (コンサルティング企業内定)

### 入学経緯と入学してから

大学では商学部にて管理会計のゼミに所属していましたが、会計士試験の勉強への限界を感じ、会計を違うやり方で勉強したいと考えて、大学院に入学しました。また、「新卒」への魅力も入学の理由のひとつです。入学してからは興味の赴くままに科目を選択し、テーマ研究や他研究科の授業も履修しています。

### 志望先企業の紹介 - 経営コンサルティング業界 -

コンサルティングの定義は各会社によって異なりますが、日本の経営コンサルティングファームの特徴として、戦略の立案のみならず実行支援も行うのが売りといえます。そのビジネスモデルは「コンサルティング」、「システム」、「シンクタンク(経済調査や官庁・自治体向けリサーチ)」の業務が三本柱です。

### 内定先を志望した理由を教えてください。

私がA社に決めた理由は以下の通りです。  
(1) 商社のなかで唯一、希望の部署に応募できる制度があったこと(配属先決め採用)  
(2) ビジネスの幅が広く、様々な会計事象・様々な会計基準に挑戦できること  
(3) ハードな仕事内容と人材育成制度の充実から早期の自己成長が実現できると考えたこと

### なぜ内々定がもらえたと思いますか? 企業は何を見ていると思いますか?

自分の全てを知ってもらおうべく、面接で強みだけでなく弱みもさらけ出したところがよかったのだと思います。企業が見ているものは「本気度」です。私の場合、インターンシップの参加や、セミナーに何度も出席することで本気さが伝わったと感じています。

### メッセージをお願いします。

私は経理職を志望して幅広い業界を見てきましたが、会計の専門性が高い職種(経理や財務)に対するニーズは高いように思いました。それでも文系大学院出身者の採用枠には限りがあります。大学院修了時は「新卒採用」を受けることができるラストチャンスです。もし「どうしても会計士になりたい、会計士でなくてはダメなんだ!」という熱い思いとそれなりの理由がないのであれば、早い段階から本気で就職活動を始めることをお勧めします。そして、就活戦線において日商簿記1級は効果抜群!ぜひ取得してください。

選考については、ほとんどの会社が早期に始め、2~3月が中心です。早い段階でグループディスカッション、ケーススタディーを課す企業が多いようです。

### 実際の就職活動の経験からよかったと考える点

- ・6月という早い時期から活動を開始、インターンの選考により厳しさに少し触れられた。
- ・早期エントリーやOB訪問等により志望度の強さを行動によってアピール出来た。
- ・欠点を含め正直に自分をさらけだしたが、そういう行動が求められていた。
- ・志望動機と業務内容がマッチしていた。
- ・面接を楽しむことができた。
- ・提出文書を人に添削してもらい、かなりの時間をかけて作成した。

### ポイント

自己PRは丁寧に、「経験」より「アピール」に重点を置きましょう。分析対象のすごさよりも分析結果と本当の性格とが一致しているかの方が重要です。筆記試験は対策をすれば難しくはありません。コンサルを受けるなら判断推理は必須です。就職対策用の本で対策を。

会計研究科2年 高橋花奈 (コンサルティング企業内定)



入学前は、商学部経営学科のゼミで管理会計を学んでいました。1、2年のときは体育会女子ラクロス部での部活動に励み、会計係をしたことから会計に興味を持ちました。公認会計士試験の予備校にも通いましたが、テキストの丸暗記ではなく、議論をしながら実務の情報を入れつつ学びたいと考え、会計研に進学を決めました。

入学後は、予備校には通わず、実務やゼミ形式の授業を中心に履修しました。特にアクセントの寄附講座やERPシステム実務を履修したことは、就職活動にプラスに働きました。簿記1級の勉強やTOEICのスコアのアップもはかりました。Financial Accounting Workshopも面白かったです。また、テーマ研究を履修し、学部の頃から続けている自動車会社の原価企画について研究していました。

内定企業であるA社を志望した理由は、自由で、個々人の成長を促す社風に惹かれたことです。B社では、経営コンサルタント、業務プロセス・ITコンサルタントという2つの区分で採用を行っています。経営コンサルタントは、経営視点で、業務プロセス・ITコンサルタントは、IT業務視点で、経営革新を実現することを目標としています。私は、業務プロセス・ITコンサルタントとして採用されました。主に会計などのシステムの導入や保守・運用の仕事だそうです。私は会計研究科で、SAPシステムに触れる機会があり、これからの会計は、システムがきちんと使えないと話にならない、簿記の練習問題をやっているだけではだめだと痛感していました。そこで、使える会計の専門家になるためには、ITの知識もつけたいと考えたので、この職種を志望しました。さらには、そもそも日本メーカーの海外進出に興味があったので、その手助けを、私の会計という専門性を生かして、より現場の近くで、クライアントと一緒にできると考えました。

就活は、新しい出会いや新しく知ることがたくさんあって、楽しいです。

私の企業選びの軸は、世界に誇れる技術、ノウハウを持っている企業であること、女性が働きやすいこと、専門性を重視し、若いうちから仕事を任せられること、でした。この3点を満たしている企業を中心に探し、OB訪問をして、対策を練りました。日本の製造業をさらに強くしたいという思いがありましたので、業界は、グローバルに展開している電機メーカーや、メーカーにサービスを提供している大きなコンサルティング会社に絞りました。企業を選ぶ際に何を重視するかの軸を早くみつけることが大切です。「給料が良い」「カッコいい先輩がいる」「福利厚生がしっかりしている」など、どんなことでもいいのです。

会計研究科は実務に即した授業が多いです。ERPシステムに学生のときから触れられることは稀です。企業の方にERPシステムに触れていると言うと、ずいぶん高度なことをしていると驚かれました。また、実務家の先生も多いので、今どのような会計専門家が必要とされているか、何がトピックになっているかを直に聞くことができます。

就職活動で、私は初めて受けた会社で内定をいただけました。志望度の高い企業に先輩が何人も行っていらしたので、OB訪問もすぐにできました。そんなに苦労をした覚えがありません。むしろ、会計を学んでいる人の需要は高いと感じました。その会計の最先端を、第一人者の先生の下、志の高い仲間とともに学べるのが、会計研究科です。

### 実際の活動の流れ

月	就活	学校	資格
6	就職サイト登録	NRIインターン申込	簿記2級
7	GD練習	業務コンサル実務	定期試験
8	就活本読み込み		
9		初セミナー(NRI)	
10	各企業のプレエントリー(大手メーカー、総研系、会計系コンサル)	ERP、テーマ研究ワークショップ	TOEIC
11	学内のセミナー(業界首位企業)		簿記1級 TOEIC
12	企業ごとのセミナー(業界研究セミナー)		
1		ソニー-BMP	TOEIC
2	エントリーシート	OB訪問	定期試験
3	選考・内定	OB訪問	
4	選考		

「会計」の知識は確実に必要とされています。他の院生に比べ勉強範囲が広く実務を意識していることは会計大学院の強みです。「大学院の選択理由と進学理由」、「会計大学院はどのような大学院なのか」「何を勉強しているのか」などをPRできるように準備しておきましょう。

### メッセージ

- ・早くから活動を始めよ!
- ・会計士試験との両立困難、覚悟して取り組み!(時間をとられる)
- ・遠慮なく人を頼れ!(OB訪問、文章の添削)
- ・辛抱強くがんばれ!
- (良い結果も遅く来ることがある)



会計研究科2年 小嶋正輝  
(ベンチャー系金融企業  
内定)

### ベンチャー企業への 就職について

入社後の大きな裁量権が期待でき、専門的に勉強してきたことを実務に落とし込める可能性が高いと思い、ベンチャー企業を志望しました。採用の過程で経営者層の方と直接話す機会を設けてくれる会社が多く、自分がその会社にとって必要な人材なのかどうかよくわかりました。

#### 志望企業を選ぶ際に、基準としたこと

志望する企業は、企業訪問・財務分析等を行い自分で選びましょう。私の場合は以下のうち該当項目が7つ以上で選考に進むかどうかを考えました。

- ・初任給の提示が一般企業より高額だった
- ・仕事の裁量が大きそうだった
- ・得られる情報の範囲で財務的に心配なさそう
- ・経営者が有望だった
- ・ビジネスモデルが面白かった
- ・オフィスがきれいだった  
(トイレ要チェックと待合室のホコリのチェック)
- ・社員の人が優秀そうだった  
(質問した後の答えが的確だった、面白かった)
- ・周りの学生が自分より優秀そうだった
- ・留学制度や学習制度が整っていた
- ・人事と受付の人が親切な対応してくれた  
(選考中の連絡対応も大事)

#### 面接できかけた内容

- ・「会計大学院生のあなたが企業の利益を考える上で一番適切だと考える指標は何ですか？」
- ・「(選考当時) 楽天がTBSの株を保有して赤字の決算発表を出しましたが、会計的な視点からこれをどう評価しますか？また今後の楽天は長期的保有すべきか売却すべきかを理由も含めて教えてください」
- ・「会計の専門職大学院ということですが、授業で習った科目について印象に残ったことを教えてください(この時は管理会計の講義で小林教授が扱っていた件を答えました)。また、その内容に関する会計的な着眼点を私に語ってください。」
- ・財務DDとは何ですか、簡単に構いませんので教えてください(略語は聞き直して確認したほうがいいかもしれません)。
- ・「ある投資不動産の評価を会計上の適正な価格に修正しましたが、それが適切な価格かどうかを私に教えてください。」

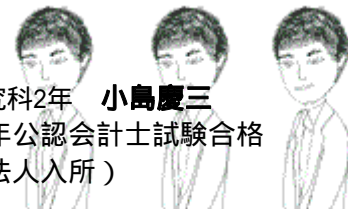
#### ポイント

わからなかったらはっきりわからないと答えましょう。自分が正解だと思って語っても、実務上では受け入れられていない場合や面接官の持論と違う場合もあるので、そういう場合は面接官の方の考えを教えていただいて質問するなどにより、熱心に聴く姿勢を保ちましょう。

「会計はどの企業においても必要なもの」ということを強みにして面接に望みましょう。新卒採用数が少なければ、入社後の仕事のチャンスも広がるので、不況を前向きに捉えて就職活動を楽しんでください。



会計研究科2年 小島慶三  
平成20年公認会計士試験合格  
(監査法人入所)



大学の経営学部で会計学に出会い、就職活動を経験後、会計士受験を決意しました。その時に会計研究科の存在を知り、その後のキャリアを考える際、専門学校ではない環境で学ぶことが大きな財産になると考えました。

**入学後**、最初の学期には22単位分の授業を履修し、授業にはしっかりと出席。そして、入学前と同様に専門学校とのWスクールで授業以外は可能な限り受験勉強をしました。

**現在は**監査法人に非常勤職員として所属。授業では寄附講座を中心に履修し幅広い知識の習得を目指しています。修了後は監査業務に従事し、その後は、例えば、監査法人のなかで監査業務以外への部門異動、一般事業会社への転職、独立など、会計の専門家が活躍できる様々なフィールドから、キャリアプランをさがしたいと考えています。

**会計研究科で得たものは** 考える力 会計士試験だけでなく社会に出ても重要、 様々な友達(勉強

仲間やタバコ仲間など) 大事!、 学生という立場 色々なことにチャレンジできる

会計士試験合格だけを考えるならば専門学校に行けばいいと思います。しかし、自分のキャリアプランを考えるとプラスになる「何か」を身につけたいと思うならば会計研究科はオススメです。その「何か」が会計研究科にはあるはずですよ。

合格者の増加に伴い、**監査法人への就職活動**は売り手市場から買い手市場へと移っています。面接ではコミュニケーション能力が見られます。法人選びでは先輩などに話を聞くのがよいでしょう。ちなみにわたしの判断基準は、幅広いフィールド 将来の自分の姿を想像できるか、でした。

会計士受験を目指している人は「必ず在学中合格」を目標にするというような強い意気込みで臨みましょう。会計士試験と就職活動のどっちつかずはダメです。新卒の重要性ももう一度よく考えてみてください。就職を決めてから、修了後に短答式試験免除を有効活用して会計士に合格するという方法も「あり」なのではないでしょうか。気持ちを強く持ってください!!!

決戦は近いです。戦略的に勉強しましょう。そして、「身体は大事&体力勝負」です。三食きちんと食べて体調管理につとめ合格を勝ち取ってください。